

個人番号は「公平・公正な社会の実現」「国民の利便性の向上」「行政の効率化」のために平成27年から本格運用が始まった12桁の番号で、それが記録されたICカードが個人番号カード(通称：マイナンバーカード)です。ここでは、そのマイナンバーカードについての活用方法などを紹介していきます。

マイナポータルで暮らしをより良く

マイナポータルは、政府が運営するオンラインサービスです。子育てや介護をはじめとする行政手続きの検索やオンライン申請がワンストップできたり、行政機関からのお知らせを受け取れたりする自分専用のサイトです。

- ①自宅のパソコンやスマホから自身の個人情報(所得や世帯情報など)が確認できる
- ②保育所などの入所申請や児童手当の申請など、行政手続きがオンラインでできる
- ③自身の特定健診情報や薬剤情報、医療費通知情報が確認できるようになる

※保険者、情報により開始時期が異なります。

行政機関が持っているあなたの情報をチェックできるよ!

見たいときに見られるね!



市役所の窓口に行かなくても申請できて便利!

うぱとママにもうれしいね!



確定申告の医療費控除も簡単に!



マイナンバーPRキャラクター マイナちゃん

マイナポータルの
利用方法などは
こちらから!



マイナポータル▲

マイナンバーカードの
申請方法などは
こちらから!



マイナンバーカード総合サイト▲

マイナンバーカードの交付率

全 国	36.0%
岐 阜 県	34.3%
可 見 市	35.5%

(令和3年8月1日時点)

可見のお宝

vol.88

可見の地名シリーズ ～久々利～

問 文化財課

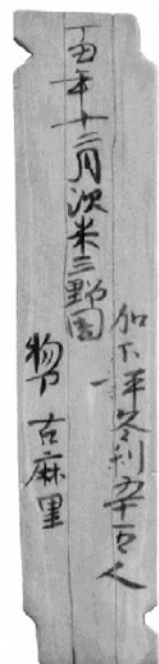
地名は現代を生きる私たちにさまざまなことを語りかけてきます。地名について調べると、生活、文化、政治などを背景にしたその土地の歴史を知ることができます。このシリーズでは、市内の地名の由来などを紹介していきます。

可見市内で最古の地名といえば、おそらく「久々利」となるでしょう。

日本書紀には景行天皇が美濃を訪れた際、^{くくりのみやくりのみや}区玖利能弥挪(泳宮)に滞在したと書かれています。また、万葉集にも美濃国の^{くくりのみや}「八十一隣之宮」と詠まれています。このことから、古代より美濃の「ククリ」という地名が広く知られていたことが分かります。正確な年代が分かるものとしては、奈良県の飛鳥池遺跡から出土した^{かに}「加尔」^{もっかん}「久々利」という地名が書かれた木簡(木の札)があります。これは西暦667年のものと推定され、「久々利」が1300年以上も前から使われている地名だといえそうです。

これだけ古いと、「ククリ」という地名の確かな由来を探ることは困難です。一説として、昭和10年に刊行された「久々利村誌」に『ククリの字を^{くくり}「瀨瀨」とも当てることがあり、^{こうけつ}瀨瀨とは絞り染め的一种であることから、その産地であった場所を「ククリ」と呼んだのではないかと書かれていますが、久々利が絞り染めの産地であったという証拠もないため、真相は不明です。

「久々利」という地名は国内には他に無く、その響きはなんとなく不思議な情緒を感じさせる地名ですね。



丁丑年十二月次米三野国

加尔評久々利五十戸人
物部 古麻里

飛鳥池遺跡出土の木簡(複製)